

# 田辺市高等教育機関設置等調査検討会議（財団へのヒアリング） 議事録

日 時	令和7年12月11日（木）午後4時00分から午後6時00分まで
場 所	田辺市役所5階 オペレーションルーム
出席者	8名
欠席者	3名
議 事	1 開会 2 議事 (1) 一般財団法人立初創成大学設立準備財団へのヒアリングについて (2) その他 3 閉会
1 開会	
2 議事	(1) 一般財団法人立初創成大学設立準備財団へのヒアリングについて (2) その他
事務局	<p>会議次第の2番、議事に移りますが、ここからの進行につきましては、本検討会議の設置要綱に基づき、座長に議長をお願いしたいと思います。</p> <p>それでは座長、よろしくお願ひいたします。</p>
座長	<p>どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>早速ですが、本日の議事を進めさせていただきたいと思ひます。</p> <p>まず、議事の1点目、「一般財団法人立初創成大学設立準備財団へのヒアリングについて」です。既に提出していただひている事前回答を踏まえ、そこからもう一步踏み込んだ質問をできるだけ率直に、かつ簡潔にお願ひしたいと思います。</p> <p>財団の皆さんにおかれましても、その回答について、簡潔に要領を得た形で御回答をお願ひしたいと思います。</p> <p>内容によっては、専門的で長い説明が必要な場合は、後日、書面で御回答いただくという選択肢も考えておりますので、その辺りもお含みおきください。</p> <p>それでは、ヒアリングに入る前に財団のほうから、この公立大学構想に係る全体の背景等について御説明頂きたいと思ひます。</p> <p>どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
財団（I）	<p>本日は時間をとっていただきまして、ありがとうございます。</p> <p>現在まで、日本の大学では、学生に向けて「君はいかに生きるのか」ということを真正面から問うような大学はまずございませんでした。</p>

AIリテラシーに取り組む大学は、最近非常に増えておりますが、地方の小さな公立大学としてAI開発そのものではなく、AIの活用で地方の未来を切り拓こうとする大学もほとんどございません。

そもそも地方には、大学そのものが非常に少ないのが現状です。

この大学では、「君はいかに生きるのか」を問うわけですが、その後国際社会についての理解を十分に深め、また、そのような国際社会になってきたのはどのような経緯なのかということについても学び、そのことによって大局観を養い、その上で次世代リテラシーとしてのAIを身に付けさせるということを考えています。

現在、日本の大学の多くが都市部に集まっております。

この紀南地域でもそうかと思いますが、学生は都市に憧れて、大学に行くわけですが、実際にはキャンパスや教室から出ることは少なく、実社会を知らないまま卒業していくケースが多いと感じています。

フィールドワークやProject Based Learning等を掲げる大学が、昨今増えてまいりました。しかしながら、その多くは短期間の体験にとどまるようなプログラムではないでしょうか。

私たちが提案する大学は、先ほどのように次世代リテラシーを身に付けた上で、学生を海外に出します。国際社会で汗を流してきた教員が関わりますので、踏み込む深さが他大学とはかなり違うものになるかと思えます。また、国内でも2週間を一つの単位として日本各地を訪れ、地域の宝のような方々と一緒に汗を流しながら学びます。

ここまで徹底した実践教育を行っている大学は、現行ではほとんど聞き及びません。

その上で、1年生、2年生と育ててもらったこの熊野の地にもう一度戻り、地域課題の解決や起業に本気で取り組むことを学びの中心に据える、こうしたカリキュラムも現行の大学にはほとんど見られないのではないのでしょうか。

この大学は、地域が若者を責任を持って育てる大学でありたいと考えています。例えば、1泊2日の入試の日には、子供や保護者を温かく地域の皆様と一緒に迎え、おにぎりやお菓子を差し入れするなど、緊張した高校生を励まし「この田辺で学びたい」と思ってもらえるような学びの入試をつくりたいと考えています。

大学生を安い労働力としてしか見ないようなまちに、親は子供たちを送り出したいと思うのでしょうか。

この田辺は、「あの時の入試の子だな、成長したね」「最近少し元気がなさそうだけど、何かあったのか」若者を地域全体で見守るようなまちになる。

そのことが伝われば、この自然豊かな場所で子どもを育てたい、ここで学びたいと思う。そういう学生あるいは保護者は、きっといるのではないのでしょうか。

そのような大学や、そのような地域は、ほかにはございません。

この大学は、唯一無二、我々はそう考えております。

教員たちは、現行の学校の制度上の制約がある中で、提案しておりますこの大学の根っことなるような教育を既に本務校で実践し、成果を生み出しています。

したがって、ここで我々が提案させていただいているカリキュラム内容等は、机上の空論ではありません。

また、最後に、この教育を実践する中核人材は、若くて志ある教員陣です。教育は人です。

	<p>理念、方法論、カリキュラム、そして、その実践者まで揃えているからこそ、私たちはこの提案を唯一無二の大学と捉えております。</p> <p>私自身、国際社会を鏡に、40年以上かけて築き上げてきたこの教育構想、ここに一切の妥協はありません。</p> <p>それでは、委員の皆様からアドバイスを頂戴させていただければと思います。座長よろしくお願いたします。</p>
座長	<p>それでは早速、ヒアリングに入りたいと思います。</p> <p>質問・回答の1番目から順番に活発な御議論をよろしくお願いたします。</p> <p>それでは、お手元の資料の1番目の項目について、財団からの回答内容を踏まえ、御意見・御質問のある委員はおられませんか。</p> <p>よろしいでしょうか。それでは次の項目に移ります。</p> <p>2番目の項目について、御意見・御質問等ある委員はおられませんか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは3番目の項目について、いかがですか。</p>
A委員	<p>回答内容の最後の二行の部分ですが、「地域のみなさまにこの大学構想をより深く知っていただく機会が十分でないように思います」と書かれています。</p> <p>大学は教学が重要ですが、いかに継続して運営していくかという点も重要です。</p> <p>そのためには、運営収支というものが大事で入学金や学生納付金を十分に確保していく必要があります。</p> <p>機会が十分でなければ、高い理念を持っていたとしても、その理念が地域の皆様に伝わり切れないということだと思いますが、それを意見交換の場づくりが重要ではないかと考えておられるとのことですが、現在、何か具体的に機会を十分に設けるための構想や、地域の皆様にこの財団が持っているビジョンを理解していただくための方策について、どのようなことを考えておられますか。</p>
財団（I）	<p>これまでのところですが、財団のほうで今持たせていただいている機会としては、地域の方々から、「少し人が集まるので、こちらに来て説明をしてください」といった機会を頂戴したときに喜んで参加させていただき説明を行うもので、そのような機会をこれまでに数回、既に持たせていただいております。</p> <p>また、あまり堅い説明になりますとカリキュラムポリシーがどうであるとか、カリキュラムの中身がどうであるとか、教授法がどうであるといった話になりがちですが、市民の皆さんからすると、ややとっつきにくい面があるということですので、地域の方に相談をしながら、もう少し柔らかく、例えばどのような授業があるのか、といったことをお聞きしまして、我々としては、既に3回ほど大学の授業としては、こういうものがあります、というような模擬授業のような取組を展開しております。</p> <p>これまでも、「国際情報分析」という高校生を対象に、1泊2日の探究の合宿をさせていただきました。また、今週末には、田辺高校の生徒さんを中心とした15人の高校生の皆さ</p>

	<p>んが集まり、同様の取組を行う予定にしております。</p>
財団（Ⅲ）	<p>来月には、マーケット、市（いち）が行われると聞いておりますので、そこで、食に関する取組として、食に関する企業の人にも集まっていたいただき、オープンファクトリーのようなものがないか、現在いろいろと考えております。</p> <p>市内の企業の方、参加していただける市民の方、それから学生もそこに加わり、体験型のイベントとして開催したいと考えています。</p> <p>体験から得られる記憶というのは非常に大きいものがありますので、そういう取組をこれからどんどん行っていきたいと考えています。その中に、例えばA Iといった要素を組み入れるなど検討しています。</p>
A委員	<p>認知度を高めるというのは、なかなか一朝一夕にはいかないと思います。</p> <p>この構想では、地域の学生の皆さんの力と同時に、全国から学生が集まることも想定されていると伺っていますが、それに対して、何か解決策はお考えでしょうか。</p>
財団（Ⅰ）	<p>現在はまだ、この場所でこうなりましたというような確定段階ではございませんので、大学の設立を目指した取組というよりは、今、高校生の探究活動が文部科学省を中心に現場でどんどん下ろされておまして、どういう実施の仕方がいいのか苦しんでおられる先生方や学校が幾つもございますので、現在は、近畿地方の高校を中心にそうした探究学習のお手伝いを実施させていただいております。</p> <p>今後は、それをさらに広めていきたいと考えております。</p>
財団（Ⅲ）	<p>私のほうからは、田辺市が持っているインサイト、価値をまず発見するような、体験的な学習を行っていききたいと考えています。</p> <p>例えば、我々はこれまでシェアダイニングという取組、「つくって食べる」ということをいろんな地点と多次元でやる、ということを行ってきました。</p> <p>こうしたグローバルな取組、ローカルな価値をグローバルに展開するというのは、インターネット等を活用すれば可能です。</p> <p>そういう意味でこの田辺から発信をしていくということ、今後さらに進めていきたいと考えています。それによって多くの方に集まっていたいただき、田辺の価値を広げていきたいと考えております。</p>
座長	<p>それでは、次、4番にまいります。</p> <p>4番の項目についていかがでしょうか。</p>
B委員	<p>3点ございます。</p> <p>1点目、理事が3名ということですが、常勤なのか非常勤なのかを教えてください。</p> <p>2点目、専門の事務職員の方はいらっしゃるのかを教えてください。</p> <p>3点目、理事会、評議員会の開催頻度を教えてください。</p>
財団（Ⅰ）	<p>理事は3名全員が専任というわけではないです。</p>

	<p>代表理事はほぼ専任状態ですが、給料などをこの財団から受け取っているわけではございません。</p> <p>それから、事務員という形では置いておりません。</p> <p>学生や大学院生の中で、この活動に賛同し、手伝ってくれている方はおります。</p> <p>理事会、評議員会は、3か月に1回、定期開催しております。</p>
B委員	<p>理事の方が常勤なのか非常勤なのかという点について、例えば、1日8時間あったとすると常勤であれば拘束されるわけですが、その辺を明確に教えてください。</p>
財団（I）	<p>理事のうち2名は現職を持っておりますので、兼職という形になります。</p> <p>代表理事が専任というような形で、ここに全面的に関わっております。</p>
座長	<p>それでは、次の質問にまいります。</p> <p>5番の項目についていかがでしょうか。</p>
B委員	<p>決算期は3月でよろしいのかどうかをお聞かせください。</p>
財団（I）	<p>決算期については、財団法人が設立されたのが8月でございますので、8月からのスタートになっております。</p>
A委員	<p>7月末ということですか。</p>
財団（I）	<p>そうです。</p>
B委員	<p>確認ですが、7月、8月というのは、昨年8月ということですか。それとも今年の8月ですか。</p>
財団（I）	<p>財団がスタートしたのは2年前の8月になります。</p>
座長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>では6番目の項目についていかがでしょうか。</p>
B委員	<p>様々な経験や知見をお持ちの方がいらっしゃるということは分かりますが、どの方がどのような知見や経験をお持ちなのかについて、一対一の関係で把握したいと考えています。</p> <p>回答は、「こういう知見があります」「こういう経験があります」という説明が並んでいますが、どの理事がどういう御経験をお持ちでということが分かるよう、一覧で教えていただきたいのですが。</p> <p>ホームページ上で開示されている情報も拝見させていただいておりますが、ここに書いてあるようなことをいろいろ書いてございますので、本日でなくても結構ですので、それが一対一の関係で明確に示していただければと思います。</p>

財団（Ⅳ）	<p>前（の画面を）御覧頂ければと思います。 簡単にまとめたものをご説明いたします。 まず、こちらが理事メンバーです。 続いて、こちらの資料がどういう今役職、お仕事をお持ちかとか、どういう経験をお持ちかがまとめられております。</p>
B委員	<p>この資料は、田辺市はお持ちではないのですね。</p>
財団（Ⅳ）	<p>こちらの資料は、今のようなご質問をいただいた時のために準備していたものになります。</p>
B委員	<p>これでいきますと、評議員、シニアアドバイザー、理事の方も常勤的な方が代表理事の方だけなので、それ以外の方々は非常勤ということで、様々な知見はお持ちで協力を頂ける可能性があるという理解でよろしいですか。</p>
財団（Ⅳ）	<p>「協力頂ける可能性がある」ではなく、現在すでにこの大学構想に向けて一緒に活動させていただいております。 全員が理事というわけではなく、配置として必要人数を置いております。それ以外のメンバーについても、財団の構成員であるという整理になります。</p>
B委員	<p>財団役員と書いてあって、その中にシニアアドバイザーが含まれています。評議員は微妙なところですが、シニアアドバイザーまで含めている点について、この方々は財団の役員なのですか。 一般的な財団法人の場合、外部のシニアのアドバイザーと受け取るのではないかと思います。その点を確認させてください。</p>
財団（Ⅱ）	<p>シニアアドバイザーにつきましては、役員ではありませんが、日常的に接点を持ってやっております。 これまでの知見や経験を生かし、何かあるときには日常的に関与しております。 隣におります財団（Ⅴ）につきましても、シニアアドバイザーとして関与しております。いろんなお付き合いの中で皆さんと知り合いになりまして、3年程前から関わっております。 ほかのシニアアドバイザーのメンバーについても、ほぼ似たような形で外部から意見を述べるというのではなく、一緒につくっていくというようなことをやっております。</p>
財団（Ⅲ）	<p>私はシニアアドバイザーの財団（Ⅲ）と申します。 私も大学の設立に深く関与しているということでございます。 この分野の学科の設立に携わり、大学全体のマネジメントにも関わってきましたし、現在も関わっていますので、そこら辺の経験を生かさせていただいてござります。</p>
座長	<p>よろしいでしょうか。</p>

	<p>では続きまして、7番目について、いかがでしょうか。</p>
A委員	<p>「話がうまくいかなかった、という経緯ではない」ということで、那智勝浦町においては賛成との意見も頂いているということですが、もう少し具体的にご説明いただけないでしょうか。併せて、このグリーンピア南紀の話が完全に終了しているのかも含めて、お話をいただければと思います。</p>
財団（I）	<p>那智勝浦町及び太地町それぞれの立場があることを踏まえ、ここで具体的な経緯を申し上げることは控えさせていただきたいと思っております。</p> <p>ただし、現状としましては、田辺でのお話は、既に昨年の12月の時点で説明を行っておりますので、両町は、田辺市での動きを御理解されております。</p>
座長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>8番目について、いかがでしょうか。</p> <p>これについてはよろしいでしょうか。</p> <p>では9番目について、いかがですか。</p>
B委員	<p>「(市が求める場合には、必要な手続を踏まえたくうえで、) 財団メンバーが準備室等の一員として参画いたします」と書いていますが、これは準備室が立ち上がったときに、財団から任期付職員等として田辺市に出向させてくる形を想定しているという理解でよろしいでしょうか。</p>
財団（I）	<p>設置に向けた準備については、市が主体的に取り組むものであると考えますが、市から要請があった場合は、なんらかの形で出向も考えられると想定しております。</p>
B委員	<p>そのための人材は、何か当てはあるのでしょうか。</p>
財団（I）	<p>現在、市から具体的な要請はございませんが、恐らくは財団の関係者になろうかと思えます。</p>
B委員	<p>関係者というのは、具体的にどういう方ですか。</p>
財団（I）	<p>理事のメンバーかもしれませんし、評議員、あるいは先ほど名前が挙がっていない財団メンバーもおりますが、その中で実際に何人がこちらに来てくださいといった市からの具体的な話もございませんので、現時点では、こういうメンバーが何人ぐらいかというお話はお答えできない状況です。</p>
B委員	<p>既に御職業をお持ちの方だと思われますので、そういう方に（本業を）辞めていただいて、田辺市の方に出向させるという理解でよろしいですか。</p>

財団（Ⅰ）	その可能性もあろうかと思えます。
B委員	<p>なぜこのような質問しているかという、仮に大学設立を進めるとなった場合、田辺市の職員だけでは、知見や経験も含めて十分に事務が回らないので、財団がどういう形で関わっていただけるのかというところの確実性を確認させていただきました。</p> <p>それから、「教育プログラム・地域連携の実践支援」「民間企業・外部支援の開拓支援」ということを書いておりますが、これは田辺市から財団に対して、業務委託契約等を締結して実施するイメージでしょうか。</p>
財団（Ⅰ）	<p>まだ市から何の御提示も頂いておりませんので、先ほどの御質問の続きになるかもしれませんが、元々は財団として、大学設立に必要な準備活動その全てにおいて財団がしっかり関わる、そのように考えております。</p>
座長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、10番の項目について、いかがですか。</p>
B委員	<p>中央教育審議会とか大学設置許認可手続の手引といった手続き面のところは重々対応頂けるといのは承知をしております。</p> <p>ただ、大学を運営・経営する場合、あるいは運営に向けた準備をしていく場合、学生をどのように集めていくのか、また、全国から学生を集める場合に、ここ熊野という地でのような尖った、差別化された要因を打ち出していくのかといった戦略が必要になると思っています。それに対するプロモーションなど、現状で結構ですので、概要を教えてください。</p>
財団（Ⅱ）	<p>学生募集に関しては、具体的な相談を受けております。</p> <p>先ほど説明がありましたように、財団は、近畿地区を中心に高大連携の活動を行っております。</p> <p>学生募集については、新しい大学で、かつ特殊な教育内容であり、前例があまりありませんので、一般的な募集形態とか広報では弱いと考えております。</p> <p>そのため、高大連携活動を中心にし、その周辺の活動も含めて直接の関係性を高校生や高校と構築し、そこを中心に学生を集めていく戦略を想定しております。</p> <p>特に中核となるのは、1学年定員144名のうち、この地域で約60名の高校生を確保しようとしておりますので、この地域での高大連携の活動が中心になろうかと思えます。</p> <p>それからあとは、恐らく生徒との直接の接点はありませんので、高校の進路の先生あるいは校長先生等との関係から高大連携の授業に入って、そこから集めるという戦略を想定しております。</p>
B委員	<p>1学年144名として、残りの80名について、具体的なお考えはあるのでしょうか。</p>
財団（Ⅱ）	<p>現時点では、それぞれ個人的な高校とのつながりが中心です。ただし、大学の設立など具体的なことが決まれば、もっと広報やプレスリリースを活用していくことになります。</p>

財団（Ⅰ）	<p>補足させていただきますと、最終的に認可に至っていく段階では、いわゆる高校等との関係で、全国に連携校をたくさんつくっていこうと思っております。</p> <p>また、この紀南地域で行う入試と、それから全国を八つのブロックに分けて、要するに、地理的には少し距離がありますので、日本全国の高校生に来てもらいたいという思いから、日本を八つの地域に分けて、それぞれの地域で入試を実施することも検討しております。</p> <p>現在、財団のメンバーの中には、大学の元職員で入試のセクションでやっていたプロもおりますので、鋭意そういう関係づくりを日本全国で始めつつあるというところでございます。</p>
B委員	<p>その方向性は理解しましたが、現実にはそれをやっていく場合、人的資源が必要になると思いますが、今後、財団のほうで体制を整備されていく御予定でしょうか。</p>
財団（Ⅰ）	<p>本格的に決まっていくそのプロセスの中で、そういう必要な人材を確保していく考えです。</p>
座長	<p>自分の勤めている学部は1学年330名ですが、そのうちの90人から100人が指定校推薦となっています。これは、その設立のときに全教員が手分けして、近畿圏のありとあらゆる高等学校、そして関東、東北、九州まで、うちの学校に入りそうなところをみんなで回りました。</p> <p>そのおかげで、今、3分の1近くを指定校で埋めることができている、いわゆる一般入試は100人もいないという状況です。ご参考になればと思います。</p>
A委員	<p>全国に連携校をつくっていくというのは、すごくいい発想だと思いますが、実践でやっている大学でご存じの状況があれば教えていただきたい。</p>
財団（Ⅱ）	<p>秋田の国際教養大学が割と近いことをやっております、あそこは英語が売りですから、英語の指導プログラムを実施し、全国から2泊3日、3泊4日の合宿とか、あるいは高校の先生のプログラム、これはもう長く続いてますが、今、名鉄観光が実施主体になって、それで大学の先生とか学生のボランティアにも人件費を払っています。</p> <p>実際、秋田の国際教養大学はそれで全都道府県から学生を集めていますが、集まりすぎて秋田県は、地元枠を作るということで指定校推薦と総合推薦の2分の1を地元枠にしています。イメージとしては、それに近いようなことがこちらでもできると考えております。</p>
A委員	<p>国際教養大学まで知名度が上がれば理想だと思いますが、そこまで行くのが大変だと思います。</p>
財団（Ⅱ）	<p>国際教養大学も元々知名度があったわけではなくて、当時の東京都立大の元学長だった中嶋先生が新しいコンセプトで始めて、教員の採用などそういうことも全く新しいコンセプトで、それが浸透しうまくいったものと考えております。</p> <p>そういう意味では、従来とは違う新しいコンセプトで、一部びっくりするようなところもあるかもしれませんが、むしろその斬新さをアピールして定着していくことが大事なんじゃない</p>

	<p>やないかと思えます。</p>
座長	<p>11 番の項目について、いかがですか。</p>
C 委員	<p>今回設立を目指す大学の「売り」は何でしょうか。</p>
財団 (IV)	<p>最初に説明させていただきましたが、この大学では入学してきた学生に対して、「君たちはどう生きるのか」というところを問います。</p> <p>それはなぜかと言いますと、目的や、自分はこうしようというものがないまま 4 年間で過ごしても、目指すところが分からず、4 年間の学びをきちんと自分のものにできないからです。そこを真正面から問う大学が今現在あるかという、まずないのではないかと思います。</p> <p>まず、そこを最初にしっかりとやる。その上でこれからの時代にまさに生きてくる AI のリテラシーを身に付けて、実践的に実際に自分たちも色々なところを見て回り、さらにそれを 4 年生の時に帰ってきて、この地元でもう一度、自分たちがそういうことをできるかどうかのトライをする。</p> <p>このように、基盤の部分、スキルの部分、実践の部分を経済的に、しかも真剣に、本格的にできるという点が、一つ大きな売りではないか考えております。</p>
C 委員	<p>難しいですね。</p>
B 委員	<p>今のお話は理念としては分かるのですが、なぜそれを熊野でやらなければならないのでしょうか。</p>
財団 (IV)	<p>熊野は人を育てるという意味で、本当にすばらしい環境が整っていると思います。</p> <p>東京の都会のビルの中で、人間性も含めて豊かな人が育てられるかというよりも、海が広がって、山が広がって、遠くを見ながら、自分はどうしようかって考えられる、そういう環境であったり、あるいは美しいだけではなく、本当に厳しい中で生きてきた人々の知恵がここには詰まっています。地域の人たちからも学び、スキルだけではないところも学ぶ。そういったところを含めまして、この地域は本当にすばらしいなど、教育的環境が備わっている意味ですばらしいなど思っております。</p>
財団 (III)	<p>なぜ熊野なのかという点ですが、熊野のというのは、私も高野山などによく行きますが、その中で落ちついて自らを振り返ることができる（場所）というところが、非常に大きなところだと思っております。</p> <p>そのしっかり根づいてやっていくというところが、教育の根本だと考えています。</p> <p>なぜ熊野かというのは、なぜ秋田か、というのと同じなんです、秋田では全寮制にして集中する（環境をつくった）というところがあったと思いますが、なぜ熊野かというのは、自分を見詰め直すことができる自然や大地の恵み、それからこの環境というのが教育に向いていると我々は考えているためです。</p> <p>なぜ熊野かというのは、自然、環境、林業、海の幸などがあり、自然を感じる、空気を</p>

<p>財団（Ⅰ）</p>	<p>感じる中で、学びというのが深くなってくると我々は思っているので、熊野しかないと考えています。</p> <p>C委員のほうから、難しいというお話がありましたけれども、私たちの国の大学では、学生に「いかに生きるのか」ということを真剣に問うところは、ほとんどないのではないかと考えています。1番最初に申し上げましたが、学生が伸びるか伸びないかの最も重要なところは、自分の学ぶ目的が明確であるかどうか、この1点に尽きます。</p> <p>この大学は、入学と同時にそれを学生に問います。そして、その答えを学生自身に探させる。その環境としてどこでもいいのかと言うとそうではないと考えています。</p> <p>水平線の向こうを見る、例えば、ここであれば、夕日が毎日大変美しく沈んでいきますが、そういう環境の中で自分の一生というものを考える、あるいは自分のいる地域というものを考える、その地域がこの海の向こうで世界につながっているということも考える。こういうことを考えた上で自分が何を学ぶのかを考えると、学生の成長は、まったく違うものになります。これは自分の教育経験の中で明確なものです。</p> <p>そのため、この大学の何が「売り」ですかといいますが、「いかに学ぶのか」を1番最初にこの環境の中で問われるこのことの重要性だと思います。</p>
<p>財団（Ⅲ）</p>	<p>補足させてください。</p> <p>今、A Iがいろいろと台頭する中で、今の教育で1番重要なのは「自らに問う力」だと思います。</p> <p>喧騒たる都会の中で自ら問えるかということ、さまざまなバイアスがあり、なかなか難しい面がありますが、この熊野で自分を問う、そこからA Iとともに生きるスキル、マインドセットというのは自ら問う力だと思います。その力をここでつけさせたいというのが我々の考えです。</p>
<p>A委員</p>	<p>学生が4年間でいかに成長するかが大事だということですが、学生自身や親御さんが1番気にしてるのは、入学してから4年後、いかに卒業して就職が自分の目的に叶うようなところに決まるかどうかだと思います。</p> <p>先ほどから例に出ている秋田の国際教養大学は、4年間で英語を身につけ、就職にも有利でそれがまた次の人気に繋がっていると思うのですが、具体的にその4年間で就職に有利になるような、何が身に付くかといった端的に言えるものはありますか。</p>
<p>財団（Ⅰ）</p>	<p>それは自分で考えて、感じて、実際に行動できる力だと思います。</p> <p>この大学構想が順調に進んだとして、今、令和7年ですが、開学は令和11年から12年とかいうことになるですと、その時に入学した学生が卒業するのは、そこからさらに4年後になります。今から考えると、9年先に社会に出るわけですが、ここでいつも説明会のときに保護者の方に申し上げるのですが、この前テスラが2027年には人間型のA Iロボットの量産体制に入るということを掲げていました。</p> <p>実際にアメリカの企業や中国の企業が、今しのぎを削ってそういうものを出しています。</p> <p>このロボット1体が300万円で、これを仮にメンテナンスをしながら10年使うと、1年当たり30万円から40万円でそういうものが使えます。</p>

	<p>このAIロボットというのは、人間ができることは、ほぼ全てできてしまう。</p> <p>そうすると、今でももう既にいろんな仕事がAIに、特にホワイトカラーの仕事がどんどん置き換わっていますが、これから9年後にどういう仕事があるのかということをご正確に言い当てることができるのだろうかと考えます。</p> <p>確実に分かっていることは、恐らくAIに相当、あるいはAIのロボットに相当の仕事が置き換わるであろうと。そのときに人間に要求される力は、自分が考えて、分析して、何をやる、そのときにAIのロボットとかAIの力をこういうことに使うんだと、そういう能力だと思います。</p> <p>そのため、この大学ではまず「君はどう生きるのか」という意思決定の部分を問います。それでAIのリテラシーをしっかりと学ばせます。それだけではなく、世界あるいは日本の津々浦々で、一体日本人はどういう地域課題を解決しながら生きていくのかというのを経験させます。最後にこの熊野に帰ってきたときに、その知見をここでもう一度、やってみたら、その時に、きみはこの大学で求められるディプロマポリシーをクリアしたね、ということになれば、卒業ということになると考えています。</p>
B委員	<p>人生の哲学あるいは社会に対する問題意識、社会に対する見方といったことは重要だと重々承知をしております。また、そういう教育方法、メソッドは非常に重要だと承知しております。</p> <p>ただ、先ほどのお話で大学の経営、運営といったこと考えたときに、残りの80名の方にアピールしていかなければならない。そのときに、なぜ熊野でなぜ田辺なのかを、もっと端的に伝える必要があるのではないかと思います。</p> <p>自然が多いからとか、水平線の向こうに夕日が見えるとか、これは日本全国どこでもあるわけですので、田辺ならではのアピールをしてほしいかと思いますが、そこら辺は何かお考えはありますか。</p>
財団(Ⅲ)	<p>その点については、つくり上げていかなければならないと思っています。</p> <p>田辺・熊野の価値を発見するというのが重要で、ここにいらっしゃる田辺の方と熊野が一緒になって、その価値を発見していきたいと思っています。</p> <p>和歌山県は自営労働者が多いと言われております。自営の経営者が多い、そういう意味での技術継承が、子供がいなくなると廃業しなければならないといったことが今後は増えていきます。</p> <p>そういう意味で、AIで技術継承して、例えばのび太とドラえもんの関係であれば、一緒になって、ドラえもんがそこにいて、技術継承を助けてくれる。</p> <p>ただ何人力というか、今はAIマルチエージェントの時代になっていて、ロボットがロボットに指示するということができるようになってきています。</p> <p>そういう意味でいくと、この田辺、また熊野において何が価値があるのか、私はこの自然、また食というのも非常に価値が高いと思っていますし、他にもアピールするところがたくさんあると思っています。</p> <p>それを一緒になって開拓していく大学にしたいと思っていますし、この大学で実証して、そういう人材、地元に基づいて、自分のお父さんお母さんがやっている仕事を継承してくれるなどといったケースを増やしていくとか、地産地消の教育というのを推進していければ、</p>

<p>財団（I）</p>	<p>それがアピールになるのではないかと思います。</p> <p>この質問の回答は、座長にお聞きすると本当にすばらしい答えが返ってくるのではないかなと思います。私自身もこの熊野に通って40年になりますが、いろんな地域と比べてもこの地域の比較優位性というのは、随分あるのではないかと思います。</p> <p>例えば、世界遺産の地であるということだけでも、世界から、年間5万人に及ぶ方がこの地を歩きに参ります。何の意味もなければ、多分人も来ないと思います。</p> <p>また、東京大学では「熊野学」というものを、新宮市さんと一緒に取り組まれておりますが、どこでもいいと言ったときに、「〇〇学」と名前の付く場所が、日本津々浦々にたくさんあるかと言えば、（そうではないと思います。）</p> <p>この熊野という場所には、歴史、文化その他で、他の場所とは一味も二味も違う、そういった魅力のある場所ではないかと考えております。ここで学生を、ここで人をつくるということに意義があるのではないかと、私は信じて疑いません。</p>
<p>B委員</p>	<p>熊野が世界遺産であること、高野山や熊野大社のことも重々承知をしております。また、他の地域とは違うということも理解しております。</p> <p>ただ、それらを学生募集のときに伝えていかなければいけないので、実証するのではなくその前段階のところで、どうすればそれが伝わり、この大学に来たいと思ってもらえるのかという点はまさに戦略ですので、きちんと整理しておく必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>今の御質問でも明確に返ってこなかったと感じました。そのため、同様の質問がなされたときに、即座に説明できるような準備は最低限必要であると考えます。</p> <p>教育メソッドがすばらしいことは重々承知をしております。その上で、この熊野、田辺で、それが教育メソッドと結びつきながらどのように効果を上げていくのか。また、他の地域で実施する場合と何が違うのかといった点について、もう少し端的に、イメージで伝えるように整理しておかないと、聞いている側としては分かりにくく感じるのではないかと思います。</p>
<p>財団（I）</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>まさに、私たち、実は今までで1番苦しんでいることが、先生の御指摘のそのポイントです。</p> <p>私たちは、これまで教育の道を一生懸命歩いてまいりましたので、正直申しまして、いかに人に上手に伝えるのかという点については、良い商品をつくれれば売れるというわけではないということをいろいろな方に教えていただきましたが、私たちの中には、PRのプロ、そこだけで生計を立てているような人はまだおりません。</p> <p>今後は、まさに先生からアドバイスくださったような方の賛同を得て、そうした方々のお力をぜひともお借りしたいと思っております。</p>
<p>A委員</p>	<p>先ほどお話のありました教育メソッドとしてはすばらしいものだと考えております。一方で、親御さんや出身の高校の先生方は、必ず卒業後の学生の姿を見えています。もちろん、大きな会社に勤めることだけが善ではないと私は思いますし、地元に貢献するようなこと</p>

	<p>もすばらしいと思います。</p> <p>しかし、それで本当にその卒業した学生が輝いているかどうかという点は、親御さんは必ず見ているので、9年後、設立から3、4年後の話を現時点でするのは難しいと思いますが、その点については注視していかなければならないと思います。</p> <p>卒業生がいかに輝き、その後の人生を過ごしていくかという点が示されなければ、大学の存続にも影響することになり、結果として学生を呼べなくなってしまうのではないかと思います。</p>
財団（Ⅲ）	<p>どの大学もやっていることですが、我々も日々それを考えてブランディングをやっております。</p> <p>そういう意味では、例えば神山まるごと高専の場合は、アートから広げていったというところもございますので、そうした手法についても、勉強させていただきながら進めたいと考えております。</p> <p>また、海外の大学、スタンフォード大学やケンブリッジ大学の学生が、熊野にわざわざ研修に来る事例もあります。</p> <p>そうした世界的な価値は財産であり、PRポイントだと思います。併せて、将来どのような職につながるのかという点についても、つくり上げていきたいと考えており、PRも含めてやっていければと思っております。</p>
D委員	<p>今までの話を聞いていると、どういう学生を求めていくのかという点が少し分からなくなったので、その点について教えていただきたいと思います。</p> <p>「あなたはどう生きていくのか」ということを、大学の4年間の中で考えていくということですが、生徒目線で考えますと、大学に入るときには、経営学部であれば経営の勉強をしながら、経済学部であれば経済の勉強をしながら、どう生きていくのかということ、常にこれからの時代は、若者は考えながら学んでいかなければならないのだろうという点については、今までのお話からも十分理解しております。</p> <p>その中で、生徒たちは国内にある800余りの大学の中から選んでいくわけであり、そのときに大学に行きたい子が、みんな来れば良いのかといえばそうではなく、目的意識を持って入って来てもらわなければ困るのではないかと思います。</p> <p>そうすると、この大学は一体どういう生徒を想定しているのか。最近では、自分が何をやりたいのか分からないという生徒も増えてきておりますが、そういう生徒でもウエルカムで受け入れて、4年間一緒に考えていきたいと思いますというスタンスなのか、それとも、データサイエンスを主とする理系学部として、AIをどう使っていくのかということをも目的とした生徒を集めていくのか、お聞きしたいと思います。</p> <p>生徒像が決まれば、アドミッションポリシー等々を決めていくことになるかと思いますが、どういった生徒をこの大学に呼び込みたいのか、また、紀南地域から60名を想定しているとのことですが、この辺で本当に60名が集まるのかという点を教えていただければと思います。</p>
財団（Ⅰ）	<p>まだ案の段階ですが、このカリキュラムをつくるに当たりましては、当然のことながら、最初にディプロマポリシーを自分たちで作作り、それに基づいてカリキュラムポリシーを作</p>

り、その先にアドミッションポリシーを考えております。

まずその出口のところで言いますと、AIリテラシーをしっかり学ばせる、次世代を生きていく上では、これからAIに関するリテラシーがなければ非常に厳しい時代になると考えております。どの分野に行くにしても必要になるため、AI活用による課題分析や解決能力を身につけてもらいたいと考えています。

また、人間社会と技術を融合させる文理融合的な思考能力も重要だと考えています。今はまだ、「経済学部に行く」「法学部に行く」という時代が続いていますが、現在はその垣根がどんどん溶け出してきていると言われております。

また、倫理的な判断力と公共性、この判断がしっかりしていないとAIを使って暴走してしまうおそれがありますので、そういったものを見るのにフィールドに基づくような実践力や協働力を身につけさせたいと思っています。また、その価値創造力、企画力、それからアントレプレナーシップといったものもしっかりカリキュラムの中で学ばせたいと思っています。

自己探究に基づく学習意欲と主体性を持った人間、つまり、大学はたかだか人生の中で4年間しか行きませんが、ここで基礎基本をきっちりつけさせたいと思っていますので、カリキュラムポリシーはそれに基づいたものが並んでいます。来てもらいたい子供たちについて、実は我々は今こう考えております。

まず、社会に貢献する意欲のある子を我々は求めたい。

なぜならば、私たちはこの田辺をそして、この熊野を自分のふるさとを元気にしたい。

このすばらしい場所、すばらしいものをもっと大きくしていくんだという、その貢献する意欲を持っている者を求めたい。

それから学習に対するその主体性や探究心を、今、一生懸命高校で探究学習でやっておりますが、探究の喜びに気づくようなそういった学生を求めたい。

当然のことながら、基礎学力は学校の内申書などできちんと把握しますので、基本的な力を身につけておいていただかないと、これは大変困ったことになると思っています。

それから四つ目として、思考の柔軟性や吸収力、それから、行動力や仲間と一緒に何かやっていくっていうのは協働性なども入試の中で見ていきたいと思っていますし、1泊2日の合宿で入試を行うつもりですが、1泊2日となりますと相当へばってきたりもするのですが、そのときにやり抜く力、こういうものを見極めたいと思っています。

こういう生徒さんにこの大学に是非来ていただいて、このカリキュラムでしっかりと鍛え上げた上で最終的には社会に出て自分で物事をつくっていく、自分で起業できるというような者を育成したいと考えております。

座長

よろしいでしょうか。

次の12番も今の質問とかなり重なっているのですが、いかがでしょうか。

次の13番についてはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

14番、これはいかがですか。

B委員	<p>データサイエンスの場合は、当然ここに書いてある数学の基礎的な素養であるとか、あるいは統計学の素養であるとか、こういうものが複合的に組重なってるわけですが、数学基礎というのが情報科学系科目の中にあって、これは高校の数Ⅲを超えるようなイメージになるんでしょうか。</p>
財団（Ⅲ）	<p>これについては、数Ⅱ・Bまで、数Ⅲというのは微積っていうのは当然あるのですが、そこは、ほぼ数学基礎というところ、高校生に対する要求なのですが、少なくとも数Ⅱ・Bは取っておいてほしいということがあり、数学基礎としては、本当に線形代数と微積っていうのが基本必修科目にしております。</p> <p>ただ、ここはもう通すまでやると。もう、とことんまでやりたいと思っていますし、これについては、うちの大学でも必修科目にしまして、とことんまでつき合っ、いわゆる質保証というふうに考えております。</p> <p>線形代数と微積があれば、一応大体のところができたら、確率や、そこら辺のデータサイエンス系が続きますが、数学自体、論理的思考というのが1番重要なところですので、そのロジックを組立てる中での軸をつくる上で、数学というのは必須であると思います。</p>
座長	<p>15番について、いかがでしょうか。</p>
D委員	<p>2週間程度の集中講義で実施するというのですが、これは全ての科目について行うのかどうかについてお伺いします。当然大学であれば一般教養の英語や体育の授業もあるかと思いますが、そういったものも集中講義で行うのですか。</p> <p>当然のことながら大学というのは座学中心の授業もあれば、実習中心の授業も当然あって、話を聞いていると、フィールドワーク等をたくさんやるようなカリキュラムを組んでいるということなので、多分実習中心にはなるとは思いますが、当然座学の授業もあると思います。</p> <p>その中で、そういった座学中心の授業も同じように2週間の集中講義的に実施するのか、この辺をもう少し具体的に教えていただきたいと思います。</p>
財団（Ⅰ）	<p>講義系ないしは演習系の科目は、大体ほぼ全ての科目が1週間の集中講義になろうかと思っています。</p> <p>それからフィールドワークに出るような実習については、大体2週間を単位に考えています。</p> <p>年間をざっくりと名目上、四つのクォーターに分けて、一つのクォーターが13週で、トータルで52週になるんですが、この大学では夏休み、冬休みを基本的には置きません。</p> <p>特にフィールドワークは相手のあることなので、海外も含めてですが、例えば現行の大学ですと色々な学期形態をとっている大学はございますが、夏休みの間に海外に出るといいうのを全部集中させてというようなことをやっております。実は私の大学もそうですが、時間がとるのが厳しく、授業13週、14週、15週と片方でやりながら、休みのときに集中的に外へ出すような形を組んでおりますが、そこがお互いせめぎ合って非常に難しいところなんです。</p> <p>特に、前期後期みたいな形でやりますと、もう1週間に1回の授業を重ねていくという</p>

	<p>ことになりますので、まさに探究の深みがとれません。</p> <p>そのため、講義も演習も基本的には1週間をベースとしたような集中講義になりますし、実習系のもはもう少し時間が必要になりますので、2週間で全ての授業が集中講義で回っていくという形になります。</p> <p>その中で、少し休みを取りたい学生は自分でその授業をとりながら、夏の間少し休みを取りたい、実家に帰るんだという学生はそういう授業の取り方をするでしょうし、もうどんどん取って行って自分は授業以外にフィールドワークに行きたいんだ、というような学生もおりますし、フィールドワークは40か所ぐらいつくりますので、最低でも10か所行きなさい、だけど自分は15、20も行きたいという学生の場合は、もっとそこを行ける自由度を作っておきたいと考えています。</p> <p>D委員</p> <p>日本でほかに例がないようなカリキュラムで、非常に新鮮味を感じるし、ちょっと面白いなという感じもしますが、高校生からすると、多分、何かイメージがつきにくいというか、例えば体育を1週間、毎日3時間ずつやるって言われて何かちょっとなというような感じも持つのかなという気は個人的にはします。</p> <p>例えば英語が苦手な子が英語を1日3時間、1週間ずっと集中講義的にやるということに対して、どの程度子供たちの学びたいというニーズ、希望が集まるのかということころは、若干心配な感じがします。</p> <p>ただ、フィールドワークは時間もかかることですし、非常に価値のある、やればすごく身になる、学びも深められるということで、2週間ぐらいはずっとそれをやるというのはすごく個人的にはいいことかなと思います。座学的なところは少し気になるころはあります。</p> <p>財団（I）</p> <p>恐らく先生が今イメージされている授業というのが、現行の大学の講義、あれが例えば1日続くのかと。少なくとも3コマぐらい続くのかというイメージをお持ちなのかなというふうにお伺いしました。</p> <p>今、AIが出てきたので、もう知識を詰め込むことに何の意味もなくなってしまいましたので、例えば、合気道の授業を考えてみたときに、これはもう当然合気道の担当の先生にお任せをすることになるのですが、1週間集中講義だからといって、朝から晩までずっと合気道やっておいてねということではなくて、結局、合気道っていうものがなぜその生まれてきたのか、例えば、技と心の成長みたいなものと言ったら、どういうことだったのか、この合気道をこの田辺の地で作られた、創始者の生き方はどうなのかとかいう、つまりは合気道について技を習得するためだけに習うというのではなく、なぜ合気道なんだというようなことを学生が自ら探究していく、体を動かしながら合気道の合理性やその中でどうやって心が鍛えられるんだとか、というようなことを1週間どっぷり合気道というキーワードに沿って探究していく、そういう学びこそが重要なんだろうと考えています。</p> <p>だからそのイメージとして、体育実技を1週間やろうという、スキー実習みたいなのは今でもございますが、今の大学の講義のイメージと相当違ったものになるだろうと思っております。</p> <p>財団（III）</p> <p>補足しますと、教え方、教員の位置づけ自体が、問われる時代になってくると思います。</p>
--	---

	<p>だから、教えないことが教えることである、かもしれないと考えています。</p> <p>そういう意味で、その姿勢というか学び方とか、何でもこういうことをやるんだっていうところを学生に教員がやってみせるとか一緒にやろうと。知識はA Iと一緒にあって、あとメディア授業で海外でやればいい話なので、そこに教員の出る幕がないかもしれない。</p> <p>そういう教え方をすることによって、主体的に学ぶ力をどんどんつけるような教育方法にしていきたいというのが、私も授業をやっていてそう思うところでございます。大学の授業自体を変えていかなければいけない一環として、それを実践的にやっていこうというふうにお考え頂ければと思います。</p>
D委員	目新しいような授業みたいになるという感じですね。
座長	<p>16番について、いかがでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>17番について、いかがでしょうか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>18番、教員の確保。いかがですか。</p>
E委員	<p>教員には当たらないと思いますが、学長はいわゆる大学の一つのシンボルだと思いますので、誰を学長に据えるかという点は非常に大事だと考えています。</p> <p>例えば、ノーベル賞受賞者を学長に据えるだけでも、すごい広告宣伝になるわけで、一気に大学のアピール度が高まると思います。</p> <p>今、大学設立が認可されたときに、誰を学長に据えるかといった具体的な人物はいらっしゃるのですか。</p>
財団（I）	<p>大学の設立が決まっておらず、公立大学法人の設置方法も決まっていない段階ですので、この先生に学長をお願いしたいというアイデアは、今のところ全くございません。</p> <p>仮に学長を引受けてくださる方に説得するには、相当時間もかかるだろうと思いますが、そういう方をまず見つけないといけません。</p>
E委員	時間がかかるとおっしゃるのであれば、逆に今の段階から調査であれ、説得を行い、ぜひ学長に就任していただきたいという願いは進めて行くべきではないですか。
財団（I）	<p>まだ、市の方針や場所も決まっておられませんし、今ここで検討いただいているところなので。実はこの間も別の説明会のときに、大学の教員の学長経験者は何人だ、副学長経験者は何人だ、という御質問をいただいたんですが、市の方針が決まっていない中で、架空の話でいろんなことをお願いするのはなかなか難しい部分がございます、いろんな方に会っていただいておりますが、そのような中で、「先生もしよかったら」といった具体的な話については、まだ踏み込めておりません。</p>

E委員	でもジャブだけ打っておいたほうが良いような気がしますけど。
財団（Ⅰ）	はい。ありがとうございます。
B委員	教員の方なのですが、既に中核となる教員1名を確保済み、同教員を中心に集める計画ですと書いてありますが、どういう形で集めてくるのか、現状において具体的な手法をどうするのかということと、それから、実務経験のある研究者の方はパナソニック、NTT等の定年後の研究者の方がいらっちゃって、それ以外に本大学構想に共感いただける志ある若手研究者の獲得を目指すとして書いてあるのですが、具体的にどういうふうにやろうとされてらっしゃいますか。
財団（Ⅲ）	<p>私はもともと企業出身者で人事を担当していた経験もあり、多くの人的ネットワークがあります。</p> <p>また、この理系の教員については、65歳以上と書いていますが、65歳以上であれば、そういうネットワークがございますので、そこからお願いをしていく形で進めたいと考えております。</p> <p>大学構想で共感いただける志のある若手研究者については、今、スタートアップやイノベーション系のワークショップ等をたくさん実施しており、そうした場を通じて勧誘や紹介の仕方があると考えております。今、そうしたワークショップに関わっている関係で、様々な人的ネットワークがありますので、社会的課題の解決に非常に興味がある先生とかいらっしゃいます。そういう方に声をかけていきたいと考えております。</p>
財団（Ⅰ）	あと文系の教員については、こういう科目に対して文科省のしっかりした審査が通るかという視点で見て、大体、このメンバーだになってというのは、あらかじめこちらとしては、つかんでおるつもりでございます。
B委員	文科省の設置審のところで、教員の能力等について厳しく見られるわけですが、その「あらかじめあてがっている」というのは、大体教員の目途が立っているという理解でよろしいでしょうか。
財団（Ⅰ）	文系に関しましては。
B委員	文系に関しては。
財団（Ⅰ）	理系の方は今、財団（Ⅲ）が御説明してくださったとおりです。
B委員	あと年齢構成や中核になる教員の方とか、その辺のバランスもいろいろ考えなければいけないと思いますが、その辺はどうなんでしょうか。
財団（Ⅰ）	理系の方の教員のリストがまだ完全に決まり切っていない状態ですので、全体の総枠の中でどちらが多いのかという話ですと、理系の方がやや多くなります。

	<p>文系のほうは半分に近いですけども、年齢構成や、設置審にあります教授側から半分以上占めないといけないというところを、きちんとクリアしていかないといけないので、これから理系の方の教員を決めていく中で、頭を悩ませないといけないと考えております。</p>
座長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>19番について、いかがですか。</p>
B委員	<p>御回答のほうで、企画室といった専門部署を設けるというふうに書いてありますが、財団のほうで、既に大学の組織のイメージのようなものをお持ちであり、そこからこの企画室というものが出てきたという理解でよろしいでしょうか。</p>
財団（I）	<p>市の方針が決まっていない中ですので、細かな大学の構造みたいなものは、こちらのほうでゼロベースでの検討をしているところですので、全体構図みたいなものまでとはっておりません。</p> <p>ただ、うちのメンバーの中にも、学長経験者とかがおりまして、そういう経験の中で、これはもう極めて重要であると認識しております。</p> <p>文部科学省の設置審や中教審において委員がどういうことを発言して、今後どのような方向に行くんだという流れもきちんとつかんだ上で大学の経営を行わなければ、本当に大変であるという経験もあります。</p> <p>そういう意味で、絶対企画室を置いておかないといけない、そういうイメージで最初から準備しておく必要があると考えております。</p>
A委員	<p>企画室といった専門部署を設けるということですが、一般的にいろいろなケースが考えられます。例えば、兼務のみで構成され、実際の部屋は設けず必要なときに集まるバーチャルな企画室というケースもあるかと思えます。</p> <p>そうではなくて、この企画室というのは、専属の職員がいる企画室という理解でよろしいでしょうか。大学でいうと、学長室の中にIRが設けられるところもあると思いますが、そのようなイメージでよろしいでしょうか。</p>
財団（I）	<p>運営組織については、大学設置の方向性が出たあとで市が検討されることになろうかと思いますが、私たちが現在持っているイメージとしましては、この大学、規模が大変小さな規模ですので、完全に独立した企画室を置いて、そこに専属の人間を置いてということは、そうしたいところですが、そうはいかないと思えます。</p> <p>職員の中でも優秀な職員に兼務をさせてもらいますし、教員も同じだと思います。少なくとも学長の下に置きますが、それを担当する副学長等を置かなければいけないというような構造で考えております。</p>
A委員	<p>これはバーチャルということですか。</p>
財団（I）	<p>企画室に専属の人間が常に控えているということはなかなか難しいのかなと考えておりますが、実質的な機能を果たす企画室を考えています。</p>

座長	<p>よろしいですか。        続きまして 20 番に行きたいと思いますが、いかがですか。</p>
B 委員	<p>卒業論文の場合に、地域で社会実装型の卒業プロジェクト、社会実装型の演習ということで、これはよく分かるのですが、その地域に新たな価値創造や、ビジネス、起業ということになりますと、教育の延長線上の話と、ビジネスの話や起業の話はそこはかなり大きな隔たりがあると認識しております。</p> <p>この点については、大学だけではなく地域との連携が重要になるとは思いますが、この辺をどのように具体的に考えられておりますか。</p> <p>社会実装ということで教育の延長は分かるのですが、そこから一步踏み出してビジネスの世界をつくり上げていくということは、そこには大きなハードルがございますので、この辺はどういうふうに考えられておりますか。</p>
財団（Ⅲ）	<p>多分どこの大学もそういう試みをしてるかと思えます。</p> <p>私が今やっている産官学地域課題解決プロジェクトでは、大体 2 年から 4 年までの学生が参加しており、250 人から 300 人の学生が PBL 科目として展開をしています。</p> <p>コンテストを開催しますが、そこで提案されたものが、継続して社会実装に至るところ、通年で取り組んでいって、例えば田辺で言うと、企業や商工会議所と一緒にになり、そのクラスターの企業のところに貢献ができる。</p> <p>そういう POC（概念実証）までが、大学がやるどころかなと思ってます。POC をやるにも、当然、商工会議所や企業、行政の力も必要であり、それらと一緒にやって取り組んでいく必要があります。我々も 4 者協定というのを結んで産学官金という形で動いております。</p> <p>そういう中で、学生がスタートアップに進むケースもありますが、そこに皆が行くわけではないですので、基本的には POC までやって、企業と一緒に協働して価値創造していくところまで、学生がやり遂げるといって、そこまでさせたいと考えております。</p> <p>スタートアップとなるとまた別問題で、そこにファンディングとかしなくてははいけませんし、そこはまた別のフェーズになると考えております。我々も経済とそういうスタートアップ支援のいろんなコーディネーターとか入れてやっていますので、そういうところと一緒にやっていくのかなと思ってます。</p>
財団（Ⅰ）	<p>あと田辺市さんにはもう既に、市役所が中心となられてたなべ未来創造塾というのも、もう長年実績を積んで、既にどんどん新しい仕事をつくっていくという実績を積み上げられてると伺っており、我々もいろいろ勉強させていただいてる最中です。</p> <p>まさにそういう地元にあるものを十分にこの大学とリンクさせていくことが大事なんだろうなと考えております。</p>
B 委員	<p>工学部系の学部や、あるいは医学部であれば創薬系など、こういった分野で POC の段階まで持っていくというのはイメージとしてすぐ分かるのですが、今回のカリキュラムの</p>

<p>財団（Ⅲ）</p>	<p>中でP o Cと言われても、なかなか難しくどういうふうを考えるのかという問題があります。</p> <p>あと、それを大学でできるのか、通常、大学院まで行って大学院の方々が企業と共同研究しながらP o Cという世界ではないのかという印象を持っていますが、その辺はどうでしょうか。</p> <p>基本的にこの大学の目指すところは、地域創生であってそこにフォーカスすべきかと思っています。</p> <p>創薬と医学系が今本当にスタートアップで、ファンドを獲得しなければなかなか厳しい状況にあるという認識を我々も持っています。バイオ系などそこは教員自らが指揮を執って進めて行く形ですが、それはどちらかといえば国立大学系と思っています。</p> <p>この公立大学は、田辺、熊野、そういう全域の地域創生を進めるためのスタートアップであり、P o Cであると思っています。</p> <p>P o Cの像としては、例えば、先ほど言いましたように、技術継承などそういうプラットフォームをつくるということが挙げられます。また、いろんな階層で生産性向上などA Iを活用したプラットフォームを構築することも考えられます。</p> <p>それから、今フィジカルA Iというものがありますので、そういう、ロボット組み込んだプラットフォームも考えております。</p> <p>当然ものづくりだけではなく、マーケティングというのがありますので、そういうところも含めてやっていくというイメージです。</p>
<p>B委員</p>	<p>地域創生ということは、言葉としてだけではなく、これの具体的な中身一体何なんだというところを突き詰めて考えていかないと地域創生は現実には動かないと思います。</p> <p>今、御説明頂いた内容は概念的には分かるのですが、このカリキュラムをやっていく中で、それがそういう地域創生の具体的ななどというところにどう結びつくのかというところがよく分かりません。</p>
<p>財団（Ⅲ）</p>	<p>そこについては、カリキュラム案においてA I活用領域というのがございまして、そこで価値創造、基礎演習というのを2年でやっていく予定です。</p> <p>次に、A I情報システム応用演習ⅠやA I情報システム応用演習Ⅱといった科目があり、これはA Iサービス化領域になっておりまして、これは2年の後半から3年の前半まで実施する想定です。ここにさまざまな座学、マーケティング論やデザイン思考概論などを配置しており、いわゆる経営工学的な内容やデータサイエンス的な内容を座学で勉強しながらそういう演習を絡めていく形になります。また、データサイエンスとマーケティング演習もございまして、そこで、地域創生のP o Cをつくっていくスキルを身に付けていくと考えております。</p> <p>そのあとにファイナンスあるのですが、次に2年のところで企画・デザイン・イノベーション科目というのもございまして、アントレプレナーシップや経営システム論といった科目があります。</p> <p>次に、フィールドワークが3年次にありまして、これは2週間程度、これ3年でやっていくという形になって、最後の4年では卒業研究、卒業プロジェクトとして地域との連携</p>

<p>座長</p>	<p>を行い、サービス創成を進めて行くことを考えております。</p> <p>こうした中で、熊野の地域課題を解決するプラットフォームを構築し、実装し、それから評価実験も行っていくという形に考えております。</p> <p>これについては、我々の大学も実践していますので、教員の指導体制のもと、価値創造の取組を企業と一緒にやっています。その枠から実際にスタートアップとして起業している学生もいますが、基本的にはP o Cまで担うという位置づけで考えています。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>21 番、いかがでしょうか。</p> <p>続いていきます。22 番でしょうか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>23 番についてございませんか。</p>
<p>B 委員</p>	<p>先ほどカリキュラムの御説明で、例えば社会実装であるとか、社会実装演習というのは、御承知のように他大学でも結構やっております、そこの違いは何なのか、また、ベンチャーを育成するというようなことはかなりハードルが高いわけです。</p> <p>大学発ベンチャー、それをやる場合に、単にアントレプレナーシップをやりました、社会実装演習をやりました、地域のための何かデータサイエンスやA Iを使ったデータの様々な分析をしました、それだけでは、大学発ベンチャー企業は立ち上げにならないわけです。例えば、大学でギャップファンドみたいなのを設定するとか、何かそういう具体的なベンチャーを育てていくような企画案みたいなものはあるのでしょうか。</p>
<p>財団（Ⅲ）</p>	<p>学内ギャップファンドについては、低学年でもやっていこうと考えております。この大学のギャップファンドという形で、まずはピッチを行い、次に、全員がギャップファンドに進むのはなかなか難しいため、その中で、ギャップファンドに行くように支援していくという形になるかなと思います。</p> <p>全員がギャップファンドに進むというのは無理な話ですので、最低限、地域の行政や地域の企業と一緒に価値創造に取り組んでいけるスキルを身につけるといえるところがあれば、基本的にはOKだと思っております。</p> <p>ただ、そこで「ベンチャー」ということを言いすぎると、保護者の立場からは、大企業に入ってほしいのに、なぜベンチャーなのかという話もあつたりします。</p> <p>一方で、時代はどんどん変わってきており、ここのカリキュラムをきちんとやれば、どんなA Iが出てきても対抗できるようなスキルセットを身に付けてやっていける、そういう人材を出していきたいと考えております。</p>
<p>財団（Ⅰ）</p>	<p>企画・デザイン・イノベーションの科目の中身自体が、他大学と比べてそんなに違うかということ、恐らくそんなに大きく中身は変わらないと思います。</p> <p>ただし、フィールドワーク、要するにコミュニティ演習を随分場数を踏ませようと思っております。この中に、まさに新しくベンチャーとして取り組んでいるような会社に預け</p>

	<p>ることもあるかもしれません。</p> <p>企業との距離もしっかり詰めていきたいと思っておりますので、座学の授業で他大学とものすごく違いがあるかという、企画・デザイン、その辺りは中身的にそんなに大きくは変わらないかもしれませんが、それを、実際にフィールドに行ったときに社長さんからいろんなことを学べる、その会社からいろんなことが学べるというようなことを持って帰って、この田辺でもう一度卒業プロジェクトということになりますので、合わせ技といいますか、学んだことを実際にフィールドで、まさに汗をかいて帰ってくる、そこが一つは重要なと考えております。</p>
B委員	<p>私が質問したかったのは、大学の中で、研究、基礎的な研究がございまして、応用研究、開発研究と進んでいくわけですが、研究成果と事業化に至るまでの資金的な手当て、そのことを言ったんですよ、ギャップファンドって。</p> <p>だから、例えば、大学の中に基金をつくるのか、あるいは政府のギャップファンドの仕組みを取り入れるのか、何かそういう具体的な仕組みや方策は、現状としてお考えがあるんですかということをお聞きしました。</p>
財団（Ⅲ）	<p>支援していただける企業も今、募っております、そこから資金提供していただくという形も考えております。</p> <p>私の大学もそういうのをやっております、商工会議所と連携しながら、そういうファンドというのを集めて、そのファンドで学生が取り組むというのをやっています。そういう地域課題をいただくとか、また、先ほど政府系のギャップファンドに応募するというのをやっていたいと思っております。</p>
B委員	<p>そうするとこの大学でそういうことも想定の範囲内に入っていると理解してよろしいですか。</p>
財団（Ⅲ）	<p>はい。</p>
B委員	<p>なかなか大変だと思いますが。</p>
財団（Ⅲ）	<p>大変だと思いますが、やらないといけないと思っています。</p> <p>そこは地域と密着して、ファンを増やしていくという形かなと思って、この大学のファンを地域の企業の方にも賛同頂いて、お金を出していただくというのも考えていければと思っていますし、そこまでやるのが我々のミッションなのかなと思っています。</p>
座長	<p>24番について、寄附等の話ですがいかがでしょうか。</p>
E委員	<p>この地域で、10億円の金なんて集めることは現実的に不可能です。正直申し上げて、多分1億円でも難しいと思います。</p> <p>毎年開催されている弁慶まつりでも約1,000万円程度集めていますが、それも皆さん、苦労して集められてるのが実態で、寄附金等で10億円という予算を立てるのは勝手です</p>

	<p>が、この地域でかなりの部分ということをもしお考えであれば、それは完全に諦めていただきたいと思います。ですから、ほかの地域で大口の寄附をしてくださる方をぜひ集めていただきたいと思います。</p> <p>実際、御存じかと思いますが、今年、田辺市に私立の小学校が開校しまして、年間2、3億円程度の運営費がかかるかと思うのですが、いまだに児童数が少ないということもあり、開校初年度ですから赤字が出るのは当然なのですが、向こう数年はかなり厳しい状態が続くと見込まれてるわけです。</p> <p>このお金という面に関しては、とりわけ公立、市立大学ということを目指されているのであれば、税金もそこに関わってくるわけですので、かなりシビアに見積もっていただきたいというのが、私の質問というよりは意見です。</p>
財団（I）	<p>寄附等につきましては、基本的に企業版ふるさと納税を想定しており、全国の企業の皆様をお願いすることを考えています。また、神山さんの事例をいろいろ勉強させていただきましたが、あそこも神山町の中からたくさんの方を集めるという形ではなく、日本全国から寄附を集めてこられましたので、私たちも今、東京に足を運ぶことも度々ございまして、この地元には立派な企業もいくつもありますけれども、この地元から旅立たれて、東京とかいろいろなところで御活躍の社長さんや会長さん方も実際たくさんおられますので、しっかりと全国レベルでお金を集めていきたいというように考えております。</p>
B委員	<p>ここは、まさに初期投資のところに關わる話でございます。全国でとおっしゃいましたが、寄附をする側のメリットは一体何なのか。</p> <p>会社を回ってお願いをしても、「お願いします」と言ってお金を出してくれるとは思いませんので、一体寄附者側に何のメリットがあって寄附を出してくれるのか。</p> <p>例えば、大学の出身者であり、企業がIPOをして莫大なお金が入った方が一部を寄附しようとか、遺贈の問題があってその一部を寄附しようとか、クラウドファンディングやファンドレイジング戦略をどのように考えておられるのか、そこがはっきりしないと、絵に描いた餅になってしまいますので、その点についてはどのようにお考えですか。</p>
財団（I）	<p>まさに、この辺をすごく上手にやられたのが、神山さんだと思っております。</p> <p>先ほどからお話しさせていただいておりますが、この大学ができることでそれぞれの企業に一体どういうメリットがあるのか。</p> <p>例えば、「こういう人材を育てるなら、うちの会社に欲しい」と言ってくれる会社、そういったところにお力添えをいただく、あるいは、「こういう学生を育てるなら、授業のときからもう既に一緒に関わっていききたい」というようなお考えを持ってくださる会社もあるかと思っております。</p> <p>実際、神山さんなんかは、実にその辺りを上手に、お金を出してくださってる企業が授業の中のほうにも実際に入り込んでくださり、学生さんたちがまた、1年間に定期報告できちっと企業のほうに、またそれもインターンという形をとったりしているみたいですが、こういうような形はぜひともこの大学でもやっていきたいと思っております。</p> <p>現在、まだことが現実的にスタートしておりませんので、実際の金額の積み上げは難しいですが、現時点でこういう人材を育成するのであればぜひ応援したいとお声がけいただ</p>

	<p>いているところは既にございますので、しっかりとその関係つくっていかないといけないですけれども、実際に成功している事例が現存しますので、ここでもしっかりとやることによって現実化することができるんだらうと考えております。</p>
B委員	<p>例えば、クラウドファンディングとかもお考えになられているのですか。</p>
財団（I）	<p>クラウドファンディングは、金額の規模に限界があるものと思ってます。</p>
B委員	<p>クラウドファンディングはどういうふうにするんですか。</p>
財団（I）	<p>知名度を広げるためにクラウドファンディングをやるのは有益だというアドバイスもいただきました。</p> <p>例えば、設立準備のために必要な経費として、クラウドファンディングをするということはあるかもしれません。</p> <p>しかし、建物の改修に必要な数億円をクラウドファンディングでというのは、これはちょっと違うだらうと思っております。</p> <p>そのところは、国からの補助金をいかに獲得するかということを考え、あるいは、外からの企業版ふるさと納税をどうやってたくさん集めるのかということを考えなければいけないと考えております。</p>
B委員	<p>先ほどのお話ですと、こういう卒業生を育てます、会社にとってメリットがありますなど、これをアピールすることは可能ですが実績がございませんので、会社の社長の方もそこにお金を寄附するかっていうところの意思決定まで、果たしてどうやって進むのか。</p> <p>この辺を詰めないと本当に絵に描いた餅になります。運営の方は少なくとも地方交付税のほうで一部出ますが、最初の初期投資のところをどうやって資金調達するかが最大の課題です。特に新規設立の場合には、本当にどういう形で具体的に寄附する側にアピールしていくのか、何のメリットがあるのか。ここはつきりさせないと集まらないと思います。</p> <p>だからそこはもう少し、深く御検討されたほうがよろしいのではないかと思います。</p>
財団（I）	<p>ありがとうございます。</p> <p>実際にこのところを一生懸命検討しておりまして、実際に足を運んで、できる暁になったら応援するからというお声も実際頂戴できておりますので、難しくてもできそうにないというような気持ちでおるわけではなく、しっかりと詰めていくことによってそれは可能になるだらうと考えております。</p>
財団（II）	<p>国が3年前から成長分野の助成金を創出しておりまして、理工系と農学部系の学部学科をつくる時に最大20億まで出せる、それは私立大学と公立大学。</p> <p>既に今年の春が3年目だったんですが、1年目が60ちょっと、2年目は60ちょっと、3年目が30大学、大体採択率が9割ぐらいです。</p> <p>これは国が理系の学部を増やそうということでやっておりますので、何とかそこに申請をして、それも早いほうが採択率が高いということです。</p>

	<p>それができれば、最大 15 億、20 億と言っても設備備品で、ほとんど人件費は出ないのですが、それを何とか使うということを検討しております。</p>
<p>座長</p>	<p>よろしいでしょうか。 25 番、理系認定について、これについていかがですか。 よろしいでしょうか。 最後に全体通して何かございませんか。</p>
<p>A 委員</p>	<p>先ほどグリーンピアについては、うまくいかなかったわけじゃないということなんですが、財団として田辺のほうを優先順位で考えているという理解でいいのかどうかということと、あとうまくいって大学設立された場合、財団自身の目的がパイロットプロジェクトの実施や、認可申請の書類作成を受け身ではなく、主体的につくるということだったのですが、設立されればその目的を果たされるわけで設立後解散するのか、それともその大学に吸収する形で考えているのか、そこまで考えていないのかも含めてお伺いしたい。</p>
<p>財団（I）</p>	<p>つくることが目的ではなく、人材育成することが目的ですので、財団がその後どうなるのかというのは、我々にとっては、二次的な問題と考えております。</p>
<p>座長</p>	<p>どうもありがとうございました。 それは、本市田辺がこれまで培ってこられた価値に関する点です。 今後、共に事業を進める過程で理解を深めていただけるものと考えますが、何もせずとも外国人観光客が当地を訪れるわけではありません。 これまで地域住民の皆様には、例えば「大学のないまちに大学生を」という形で多大なご支援を賜り、その結果、数多くの交流実績が生まれてきました。 これらは、単に「よい人が集まるまち」であるからではありません。口熊野、すなわち熊野古道に象徴されるとおり、京都から海路で来訪し、当地から上陸し、最終的には徒歩で熊野古道を巡礼するという長い歴史が存在します。その巡礼者を受け入れてきた文化を、田辺は長年育んできました。 さらに、巡礼の目的地である熊野三山にも、非常に価値ある物語が存在します。これらは、当地の人々が世界に向けて発信してきた歴史と文化であり、「訪れる者の貴賤を問わず、一切の差別なく受け入れる」という精神を基底とするものです。 外国人観光客が当地を訪れる理由の一つは、この精神が発する強いメッセージによるものです。世界各地では宗教問題による紛争が絶えませんが、日本の神々は全てを受け入れるという思想が存在します。こうした壮大な物語こそが田辺の価値を形成し、シチズンシップを育てていると考えます。 別の委員会で、高校の生物科教員が述べられましたが、北から田辺方面へ高速道路を走行すると、山の稜線に多数の風車を見る地域があります。一方、田辺には風車がありません。それは南方熊楠がいたからです。 これらすべてを教育として、また地域文化として育ててこられた点にこそ、他地域にない当地独自の価値があると考えます。 私どもは 2007 年以來、大学生と共に当地でお世話になっていますが、求めているものは</p>

<p>財団（Ⅲ）</p> <p>座長</p> <p>E委員</p>	<p>いま申し上げたようなこの街が培ってきたホスピタリティの文化です。ホスピタリティは当事者意識なくして生まれるものではなく、誰かに教えられて得られるものでもありません。自身の体験を通して心の底から自然に湧き上がるものであると考えます。</p> <p>これは、おそらく生きること、そして働くことの価値の源泉であると考えています。この点を、今後の大学事業の価値として盛り込んでいただきたいと思います。熊野が有する物語は、世界平和にまで言及してもよいほどの普遍性をもつと考えています。それほど尖った方向性を打ち出さなければ、学生を当地に呼び込むことは難しいと考えています。</p> <p>私はA Iの立場ですけど、そういう巡礼A Iとか、何かそうそうホスピタリティやおもてなしのA Iなど、そういうものをここから発信していきたいと考えています。</p> <p>その他今まで出てきた話題以外に御意見・御提案などございますでしょうか。</p> <p>大学名はまだ決まっているわけじゃないですけど、当然、立初という単語にこだわりを持ってつけられていると思うのですが、この単語自体をこの大学構想、話を聞くまで見たことも聞いたこともない言葉であって、余り一般的になじみのある単語ではないと思いますので、そういう意味では、違う言葉に変えられたほうがよろしいかと思います。</p> <p>当然、こだわりを持って付けたというのは分かるのですが、一般受けしないような気がします。</p>
<p>財団（Ⅰ）</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p>
<p>座長</p>	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>予定していた全ての議事が終了しましたので、事務局お返しします。</p>
<p>事務局</p>	<p>座長ありがとうございました。</p> <p>それでは、これもちまして本日の会議を終了させていただきます。</p> <p>委員の皆様方におかれましては、長時間にわたり御議論いただき、誠にありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">【終了】</p>